

狭山市遺跡調査会報告 第4集

滝祇園遺跡

第2次調査

1993

埼玉県狭山市遺跡調査会

狭山市遺跡調査会報告 第4集

たき ぎ おん
滝祇園遺跡

第2次調査

1993

埼玉県狭山市遺跡調査会

序

狭山市は、関東平野のほぼ中央に位置し、埼玉県西南部に当たる武蔵野丘陵地帯にあります。

地形的には、名栗村から発して荒川に注ぐ入間川が市域の中央やや北寄りを貫流し、市街地を二分して河岸段丘を形成しています。この河岸段丘は、おおむね平坦地で畑地と武蔵野の平地林で形成されており、遺跡分布調査の結果67か所の遺跡の所在が確認されています。

昭和50年代に入り、開発に伴う宅地造成等が遺跡の所在地に多くなってきたことに対応して、遺跡の保護のため発掘調査を行って記録保存を実施しているところです。

本書は、平成2年度に発掘調査を実施した滝祇園遺跡の記録保存の報告書です。ここに、その成果を明らかにして広く市民各位及び研究者のご指導、ご助言を仰ぐ次第です。

最後に、遺跡の調査をご快諾いただいた土地所有者、地元関係者各位に対して厚くお礼申し上げます。

狭山市遺跡調査会

会長 武居 富雄

例 言

1. 本書は、平成3年に狭山市入間川2266番地1の発掘調査を実施した滝祇園遺跡2次の調査報告書である。
2. 調査及び整理の期間は、平成3年1月28日～平成5年3月31日までである。
3. 調査の文化庁通知は、平成3年5月29日付 委保第5の345号である。
4. 発掘調査は、株式会社大京の依頼を受け、滝祇園遺跡調査会が実施し、小淵良樹が担当した。
5. 平成4年5月に各調査会を統合し、狭山市遺跡調査会と名称を改めた。
6. 本書の編集は、狭山市遺跡調査会が行った。
7. 本書の執筆は、調査担当者が行い、挿図の作成及び遺構の写真撮影は、調査担当者と石山が行った。
8. 発掘調査及び整理、本書作成の過程において下記の方々のご指導、ご助言を賜った。
ここに厚く感謝の意を表す。
飯田充晴、齋藤祐司、笹森健一、曾根原裕明、坪田幹男、中平 薫、埼玉県教育局文化財保護課

目 次

序

例 言

目 次

挿図目次

写真目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 狭山市及び周辺遺跡の立地と環境	2
第3章 滝祇園遺跡の調査	5
第1節 遺跡の概要	5
第2節 遺構と遺物	6
第4章 結 語	9

挿 図 目 次

- 第1図 狭山市周辺遺跡図 (1/50,000)
- 第2図 滝祇園遺跡周辺地形図 (1/5,000)
- 第3図 全体測量図 (1/300)
- 第4図 第2号住居跡 (1/60)

図 版 目 次

- 図版1 調査区遠景
調査風景
- 図版2 第2号住居跡全景
第2号住居跡 (調査前)

組 織 表

発掘調査

狭山市滝祇園遺跡調査会

- 会 長 武居富雄（狭山市教育委員会教育長）
- 理 事 斎藤勝次（狭山市文化財保護審議会委員長）
- 理 事 山崎 稔（狭山市教育委員会教育次長）

事務局

- 事務局長 大沢晋平（狭山市教育委員会社会教育課長）
- 事 務 局 伊藤 清（狭山市教育委員会社会教育課文化財係長）
- 調査担当 小淵良樹（狭山市教育委員会社会教育課職員）

整理・報告書刊行

狭山市遺跡調査会

- 会 長 武居富雄（狭山市教育委員会教育長）
- 理 事 斎藤勝次（狭山市文化財保護審議会委員長）
- 理 事 山崎 稔（狭山市教育委員会教育次長）
- 理 事 水越昭久（狭山市教育委員会社会教育担当参事）
- 監 事 高橋彦一（狭山市文化財保護審議会委員）
- 監 事 田口定一（狭山市会計課長）

事務局

- 事務局長 牛窪忠洋（狭山市教育委員会社会教育課長）
- 事 務 局 石田公一（狭山市教育委員会社会教育課文化財係長）
- 事 務 局 石塚和則（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
- 事 務 局 松高直人（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
- 整理担当 小淵良樹（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）

調査・整理参加者

協力員

- 遠藤明子、大場啓子、大場宏子、指田ツネ、田口文枝、福永弘幸、三浦良子、水村弘子、
宮野ミト、山川淑恵、山崎好子、山本とし子

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

昭和62年8月3日付けで、株式会社大京から入間川2266番地に共同住宅を建設するのに当たって埋蔵文化財の所在について照会があった。埋蔵文化財包蔵地台帳と照合した結果、滝祇園遺跡（県遺跡番号22064）が所在することが判明し、工事に先立って記録保存の必要があると回答し、埋蔵文化財発掘届の提出を求めた。現状は、民家が数軒建てられていたのを解体撤去したところで、家の基礎により遺構が破壊されていると予想された。

昭和63年4月30日付けで埋蔵文化財発掘届が提出されたのを受けて協議を開始した。その結果、発掘調査に先立ち確認調査を実施して、遺構の有無及び保存状況の把握、調査区の選定を行うこととした。確認調査の結果、発掘調査を実施する要を認めた時は遺跡調査会を発足して調査を実施することに決した。

昭和62年8月3日に重機を導入して確認調査を実施した所、住居跡1軒を検出したので発掘調査の日程等の協議に入り、遺跡調査会の設立準備にはいった。

その後、事業の計画変更があり、遺跡調査会は設立したものの調査には至らず、日が過ぎ去った。

平成2年6月12日付けで狭山市あてに開発事前協議書（変更）が提出された。埋蔵文化財の取扱いは、遺跡調査会が既に設立してあったので発掘調査の手続きは順調に進んだ。

平成3年1月23日に株式会社大京と滝祇園遺跡調査会との発掘調査委託契約書が締結された。狭山市滝祇園遺跡調査会から平成3年1月23日付けで埋蔵文化財発掘調査届が提出され、調査の事務手続きが完了した。

平成3年2月5日に準備を整えて発掘調査を開始した。

第2節 調査の経過

- 2月5日 重機を導入して表土除去を実施。事務所を設置して器材を搬入。
- 2月6日 遺構確認を開始。隅丸長方形プランの住居跡を確認し、ただちに住居跡を4分割して調査を実施。
- 2月7日 遺構調査。床面を検出。東壁下で焼土を検出し精査したところカマドと判明した。攪乱により遺存状態は悪かった。セクション図を作成し土手ははずした。
- 2月8日 遺構写真撮影。各種平面図を作成。
- 2月10日 調査区の埋めもどしを実施。器材を撤収して調査を終了。

第2章 狭山市及び周辺遺跡の立地と環境

狭山市は、埼玉県南西部に位置する人口15万人の都市である。主要交通路は、鉄道では西武新宿線、道路では国道16号線と国道299号線がある。市の主要産業は農業であったが、昭和37年に川越工業団地、昭和46年に狭山工業団地が造成され、現在では、工業製品出荷額が埼玉県第1位をほこる工業都市となっている。このなかで、東京環状線として機能している国道16号線が重要な位置を占めている。また、副都心新宿に約50分で行ける便利さは、東京方面への通勤圏として住宅適地となり、都市化現象もみられる。

〈立地〉

埼玉県の地形は、西部の山岳地から順次標高を下げ、武蔵野台地等を経て東部の低地へと続く。中央部の台地は、山地から流れだす中小河川によって浸蝕され、多くの河岸段丘を形成している。入間川もその一つで、市内では武蔵野台地を開析して南部の狭山市街地をのせる段丘(武蔵野台地)と、北部の広瀬・柏原地区等をのせる段丘(入間台地)を形成している。入間川の流れは、南西から北東に向いており、水富地区から開析谷の幅を徐々に広げ、川越市の落合橋付近で南東流してくる越辺川と合流する。河岸段丘は、南側で3段、北側では2段であり、上流の笹井では3段となっている。

狭山市南部では、入間川とおおむね同方向に流れる不老川に開析された地形を呈しているが、その川は冬の渇水期には流れがなくなり、開析の度合は進んでいない。

段丘上は、ほぼ平坦であるが微地形は複雑で、入間川の流れと同方向に埋没谷がいくつかみられる。段丘崖は急傾斜を呈し、湧水が認められる所もいくつかある。遺跡は、各時代を通じてこの段丘崖に沿って認められる。

〈狭山の遺跡〉

当市には、67か所の遺跡が所在する。時代別の遺跡数は、旧石器時代4、縄文時代44、古墳時代6、奈良・平安時代41である。遺跡の大半は、入間川の両岸段丘上に立地する。(増田 他 1986)。右岸は、入間川町の市街地をのせる段と入間基地をのせる段の2段に遺跡が所在し、左岸は笹井地区は3段に所在し、他は最上段に立地する。入間川流域以外では、左岸段丘の奥にある智光山公園を水源とする小河川の両岸に11遺跡が集中している。遺跡の時代別立地状況の特色は、特に認められない。次に各時代について概観する。

旧石器時代

遺物は、表採資料で数点発見されている。森ノ上西^⑮・上中原の両遺跡では、ナイフ形石器が発見されている。

平成2年に、首都圏中央連絡道路の建設に先立って根岸に所在する西久保遺跡の発掘調査が埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって行われ、ナイフ形石器等が出土している。

縄文時代

時期別では、草創期2、早期3、前期19、中期37、後期16、晩期0である。草創期は、上広瀬上ノ原^⑰・下並木の両遺跡で尖頭器が発見されている。早期は、昭和44年に調査が実施された今宿遺

跡⑬（小淵 1987）で茅山式期の野外炉が発見されている。前期は、昭和56年調査を実施した揚楯木遺跡で、黒浜期の住居跡を9軒検出し、多量の土器と石器が出土した。中期は、前期の揚楯木遺跡と昭和46・56年に調査を実施した宮地遺跡⑧で住居跡61軒と敷石住居跡3軒、土壙多数を検出した。宮地遺跡では、勝坂期から加曽利EⅣ期までの時期があり、環状集落を呈している。後期は、高根遺跡の調査で堀ノ内期の包含層を検出し、多量の土器が出土している。

古墳時代

古墳群3か所と集落跡が確認されている。昭和56年に調査を実施した滝祇園遺跡（小淵 1983）では、後期の鬼高期に属する住居跡を1軒検出している。古墳は、昭和53年の笹井古墳群で半地下式構造を呈するものが1基検出されている。他にも、上広瀬古墳群⑭・稲荷山公園古墳群⑮で工事等で半地下式構造の古墳が発見されている。

昭和63年に市営住宅の立て替えに伴い遺跡の一部を発掘調査したところ、古墳5基を検出した。いずれも埋葬施設は地下に石室を構築している。石室から鉄製の直刀、鏃、刀子、ガラス製小玉、水晶製切子玉などが出土している。

奈良・平安時代

この時代は、狭山市で特に遺跡が多いところで、入間川の両岸台地上は当該期の遺跡がほとんどである。調査した遺跡も多く、宮地・上広瀬上ノ原（小淵 1985）・今宿・森ノ上・富士塚⑰・小山ノ上⑱（中村 1988、小淵 1988）・城ノ越（増田 1978、小淵 1985）・宮ノ越（駒見 1982）・揚楯木（小淵 1986）・稲荷山⑲の10遺跡がある。検出した遺構は、竪穴住居跡が254軒、掘立柱建物跡が55棟、墳墓6基である。

鎌倉時代以降

城柵関係では、入間川左岸に城山砦跡（廓の一部）が存在する。現在、土塁と堀に囲まれた一廓が遺存している。ここから上流1kmの地点に本書で報告する小山ノ上遺跡⑲で検出した堀が存在する。このほかには、武蔵野台地に特徴的にみられる深井戸が七曲井・堀兼之井・八軒家の井の3基存在する。七曲井は、昭和45年に発掘調査を実施してロート状の堀り方と井桁を検出、多量の陶磁器が発見されている。これらの井戸は、埼玉県教育委員会が実施した歴史の道の調査で確認された鎌倉街道に隣接しており、この街道と密接な関係がうかがえる。街道は、3本の道筋（あ～う）が確認されており、（あ）は本道として、（い）は堀兼道として位置付けられている。（あ）は、北が日高町女影付近を通り鳩山町今宿へ抜け、南は所沢市久米から東京都府中市へと抜けている。

（い）は、所沢市内で（あ）と分離して狭山市堀兼を通り、狭山市新狭山へと通じている。これらの道筋は、鎌倉時代以前の古道を整備したものともいわれており、奈良・平安時代の集落との関連が十分に考えられる。

遺跡名		遺跡名		遺跡名	
1	東八木窯跡群 (22049)	28	上の原東遺跡 (22065)	55	台遺跡 (22085)
2	八木遺跡 (22068)	29	土の原西遺跡 (22063)	56	稲荷山公園古墳群(22052)
3	八木北遺跡 (22021)	30	半貫山遺跡 (22061)	57	稲荷山公園遺跡 (22051)
4	八木上遺跡 (22022)	31	稲荷山遺跡 (22058)	58	石無坂遺跡 (22083)
5	沢口上古墳 (22020)	32	前山遺跡 (22059)	59	富士見西遺跡 (22082)
6	笹井古墳群 (22019)	33	高根遺跡 (22062)	60	富士見北遺跡 (22072)
7	沢口遺跡 (22080)	34	町久保遺跡 (22034)	61	富士見南遺跡 (22081)
8	宮地遺跡 (22018)	35	宮原遺跡 (22017)	62	町屋道遺跡 (22088)
9	金井遺跡 (22071)	36	下双木遺跡 (22078)	63	七曲井 (22046)
10	金井上遺跡 (22023)	37	上双木遺跡 (22077)	64	堀兼之井 (22047)
11	上広瀬上ノ原遺跡(22005)	38	上広瀬西久保遺跡(22073)	65	八軒家の井 (22076)
12	霞ヶ丘遺跡 (22004)	39	東久保遺跡 (22070)	66	八木前遺跡 (22087)
13	今宿遺跡 (22002)	40	西久保遺跡 (22069)	67	金堀沢遺跡 (入間市)
14	上広瀬古墳群 (22001)	41	上諏訪遺跡 (22086)	68	坂東山遺跡 (入間市)
15	森ノ上西遺跡 (22079)	42	滝祇園遺跡 (22066)	69	東金子窯跡群 (入間市)
16	森ノ上遺跡 (22008)	43	峰遺跡 (22024)	70	新久窯跡群 (入間市)
17	富士塚遺跡 (22009)	44	戸張遺跡 (22026)	71	八坂前窯跡群 (入間市)
18	鳥ノ上遺跡 (22010)	45	揚榎木遺跡 (22027)	72	前内出窯跡群 (入間市)
19	小山ノ上遺跡 (22011)	46	坂上遺跡 (22029)	73	芦刈場遺跡 (飯能市)
20	御所の内遺跡 (22012)	47	稲荷上遺跡 (22032)	74	張摩久保遺跡 (飯能市)
21	英遺跡 (22074)	48	上中原遺跡 (22089)	75	中原遺跡 (飯能市)
22	城ノ越遺跡 (22013)	49	中原遺跡 (22025)	76	ヤタリ遺跡 (飯能市)
23	宮ノ越遺跡 (22016)	50	沢台遺跡 (22079)	77	若宮遺跡 (女影庵寺を含む) (日高町)
24	宇尻遺跡 (22075)	51	沢久保遺跡 (22041)	78	宿東遺跡 (日高町)
25	丸山遺跡 (22037)	52	下向沢遺跡 (22042)	あ	鎌倉街道上道 (本道)
26	金井林遺跡 (22035)	53	吉原遺跡 (22067)	い	鎌倉街道上道 (堀兼道)
27	鶴田遺跡 (22044)	54	下向遺跡 (22085)	う	鎌倉街道上道枝道

図中における日高町所在の遺跡は『日高町遺跡分布調査報告書』(中平 1980)に、飯能市所在の遺跡は『飯能市遺跡分布地図』(曾根原 1983)・『飯能 遺跡(1)』(曾根原 1984)によった。なお鎌倉街道上道の道筋は埼玉県教育委員会『鎌倉街道上道』において推定されたものを記載した。



第1図 狭山市周辺遺跡図 (1/50,000)

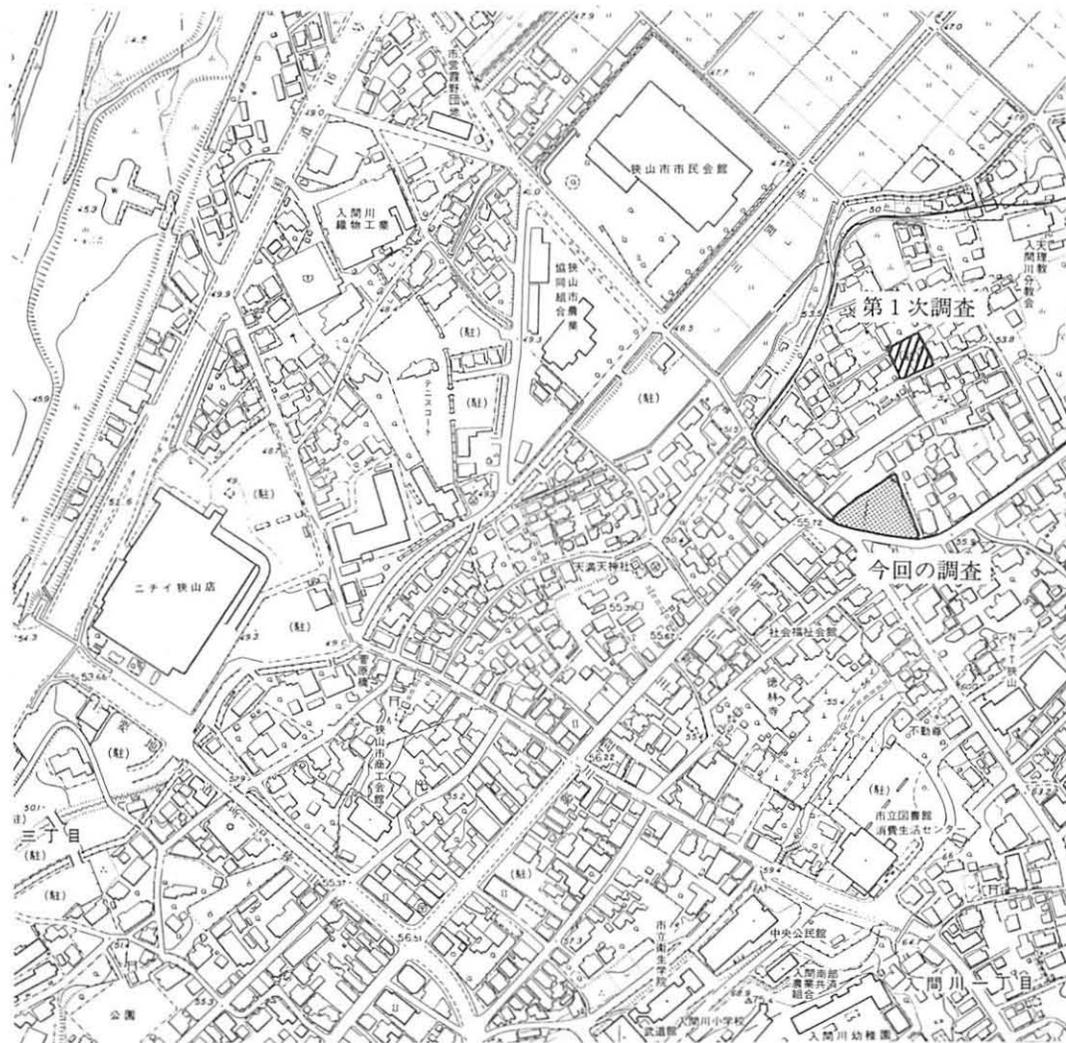
第3章 滝祇園遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、西武新宿線狭山市駅の北方約500m、入間川右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡をのせる段丘は、入間川水面寄り3段目に相当し、入間川の旧市街地をのせている。本遺跡の北側は、急な傾斜4段目の段丘となっており、比高差は約8mを測る。また下位の段丘面との比高差は約7mを測る。この段丘は、段丘間幅約200mで細長く、入間川に平行している。段丘上は概ね平坦である。

遺跡周辺は市街地となっており、住宅が密集している。調査はこうした住宅地の再開発に伴うもので、解体した建物の跡地が調査区である。

調査区は、東西35m、南北35m、面積1,250㎡の不整四角形を呈する。



第2図 遺跡周辺地形図 (1/5,000)

第2節 遺構と遺物

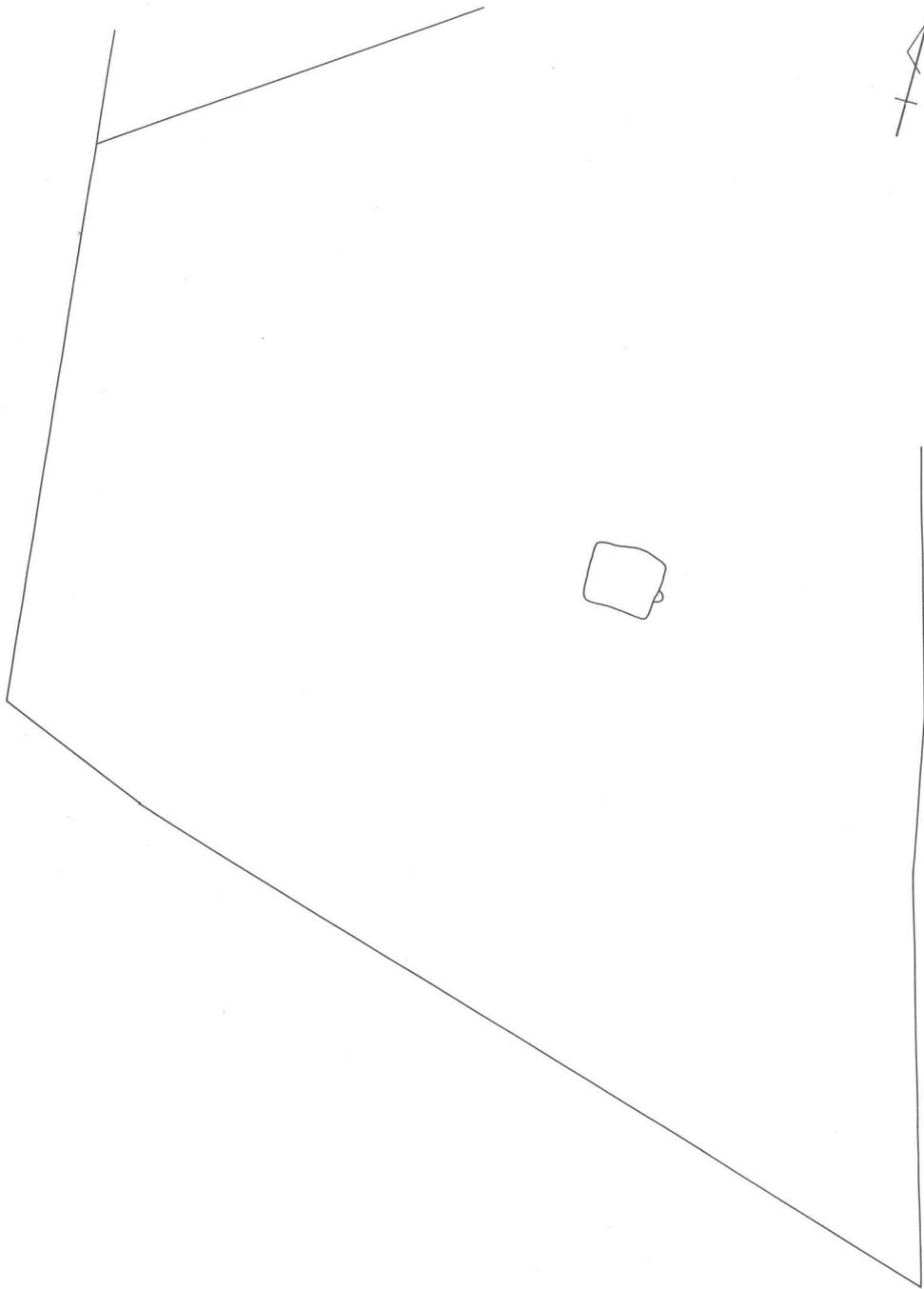
第2号住居跡（第4図）

本跡は、調査区の中央にて検出した。表土上に民家があり、その攪乱により部分的に破壊されている。

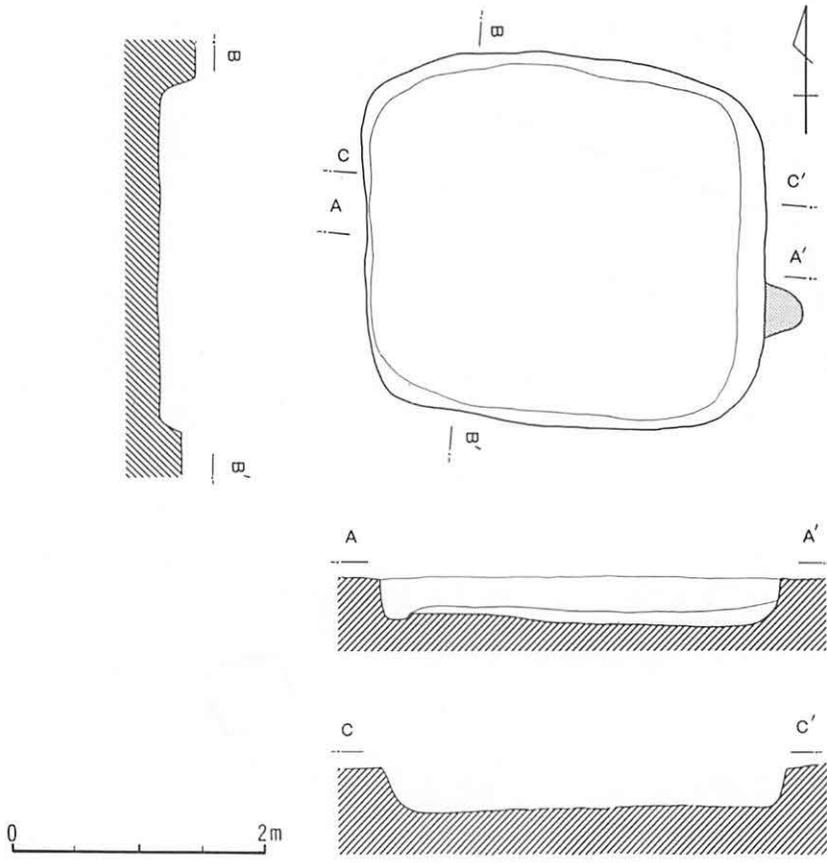
プランは、隅丸長方形を呈する。規模は、東西3.20m、南北2.94mを測る。床面積7.83㎡である。主軸方位は、N-93°-Eを示す。壁体は、斜に立ち上がり、33cmを測る。壁溝・柱穴は、検出されなかった。床面は、平坦でかたく踏みしめられている。カマドは、東壁に所在する。攪乱により大破している。

出土遺物

土師器甕の破片が数点出土した。図示できる遺物はなし。



第3図 全体測量図 (1/300)



第4图 第2号住居跡 (1/60)

第4章 結 語

今回調査した第2号住居跡は、昭和57年に発掘調査を実施した1次調査区の第1号住居跡と直線距離で80mの距離がある。第1号住居跡は、古墳時代の鬼高期のもので土器が多量に出土している。本調査では1軒だけの調査で、遺物も少ないことから時代の特定が困難である。カマドは、第1号住居跡が北壁に所在するのに対して、第2号住居跡は東壁に所在しており、両者が同一時期とは考えにくい。住居の規模は、3m前後と小型であることを考えあわせると、新しい時期と考えてもおかしくはない。

当遺跡は、既に市街地となっており民家が建て込んでいるところで、昭和57年の分布調査でも限られた場所での採取となったが須恵器の甕が表採されており、奈良・平安時代の集落遺跡でもある。今回検出した第2号住居跡はこうした状況から奈良・平安時代のものと考えておく。

本調査は、市街地の再開発に伴うもので、今後このような事案が増加すると思われる。その為の調査で、資料の増加をまって当遺跡の性格を明らかにしていかなばならないだろう。

引用・参考文献

- 小淵良樹 1985「城ノ越遺跡3次」狭山市埋蔵文化財調査報告書 狭山市教育委員会
1986「揚櫃木遺跡」狭山市埋蔵文化財調査報告書4 狭山市教育委員会
1987「今宿遺跡」狭山市埋蔵文化財調査報告書5 狭山市教育委員会
1988「小山ノ上遺跡2～5次」狭山市埋蔵文化財調査報告書7 狭山市教育委員会
- 駒見和夫 1982「宮ノ越遺跡」埼玉県遺跡調査会報告第44集 埼玉県遺跡調査会
- 埼玉県歴史資料館 1983「鎌倉街道上道」歴史の道調査報告書第1集 埼玉県教育委員会
- 曾根原裕明 1983「飯能市遺跡分布図」飯能市教育委員会
1984「飯能遺跡(1)」飯能市教育委員会
- 中平 薫 1980「日高町遺跡分布調査報告書」日高市教育委員会
- 中村倉司 1988「小山ノ上」埼玉県埋蔵文化財調査報告書 埼玉県埋蔵文化財
- 増田正博 1978「城ノ越遺跡」狭山市城ノ越遺跡調査会
- 増田正博・鹿島英明・小淵良樹 1986「狭山市史 原始・古代編」狭山市

圖 版



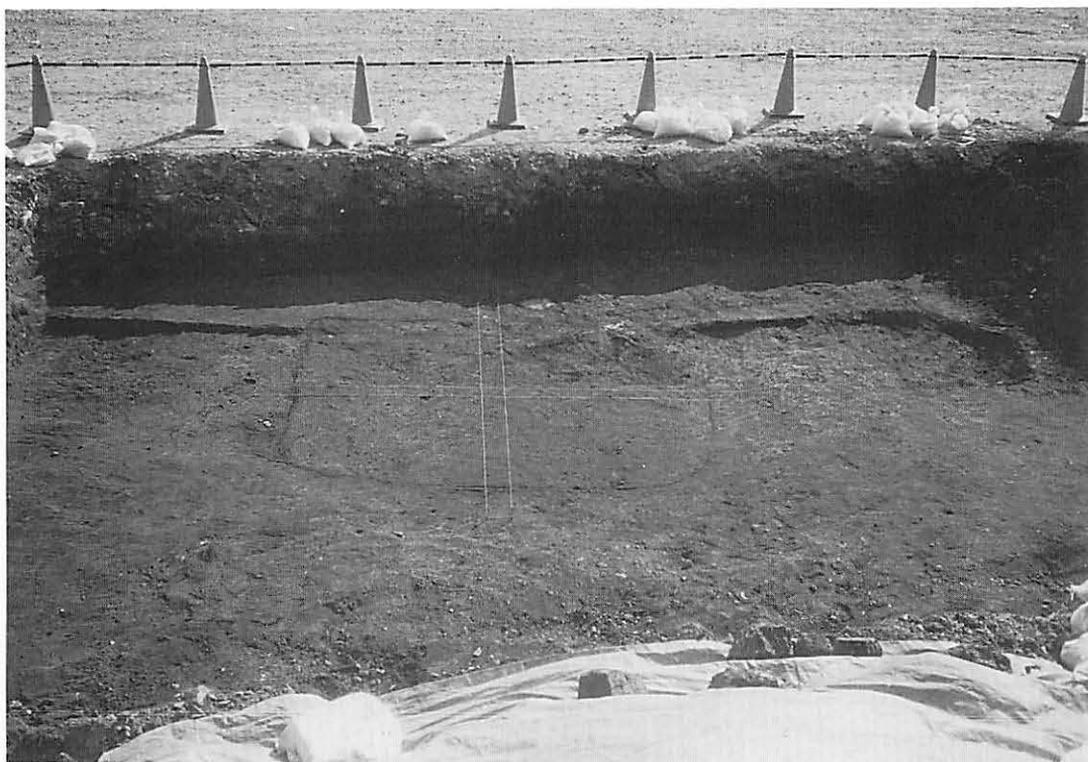
調査区遠景



調査風景



第2号住居跡全景



第2号住居跡（調査前）

平成5年8月25日 印刷

平成5年8月30日 発行

狭山市遺跡調査会報告 第4集
滝祇園遺跡

発行 埼玉県狭山市遺跡調査会

埼玉県狭山市入間川1-23-5

狭山市教育委員会内

電言 0429 (53) 1111

印刷 ミネ五十子印刷

埼玉県狭山市狭山14-8

電話 0429 (52) 2701

報告書抄録

ふりがな	たきぎおんいせき だい2じちょうさ							
書名	滝祇園遺跡 第2次							
副書名								
巻次								
シリーズ名	埼玉県狭山市遺跡調査会報告書							
シリーズ番号	第4集							
著者氏名	小淵 良樹							
編集機関	埼玉県狭山市遺跡調査会							
所在地	〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5				TEL04-2953-1111			
発行年月日	西暦1993（平成5）年8月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
たきぎおんいせき 滝祇園遺跡	さいたまけんさやまし 埼玉県狭山市 いるまがわ 入間川2266番地	22	66	35.5131	139.2429	19910205 ～19910210	1,250	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
滝祇園遺跡	集落跡	奈良・平安時代		住居跡	1軒	土師器の破片		

【正誤表】

滝祇園遺跡 第2次調査

(狭山市遺跡調査会報告 第4集)

ページ	行	誤	正
組織表	5・14行目	山崎稔	山崎稔
	22行目	松シマ(山かんむりに島)直人	松寫直人
2ページ	最下段	下並木	下双木
4ページ	11 上広瀬上ノ原遺跡	22005	22007
	48 上中原遺跡	22025	22039
	49 中原遺跡	22025	22038

